

ワシントン条約附属書掲載
オウム目識別マニュアル



2011年（平成23年）3月

環境省自然環境局

目次

1	マニュアルの目的.....	1
2	規制の概要.....	1
3	オウム・インコ類について.....	5
4	各部名称.....	7
5	オウム目鳥類の各種の形態的特徴.....	9
	ヤシオウム.....	10
	オオバタン.....	11
	キバタン.....	12
	コバタン.....	13
	シロビタイムジオウム.....	14
	アカビタイムジオウム.....	15
	フィリピンオウム.....	16
	ヒスイインコ.....	17
	スミレコンゴウインコ.....	18
	コスミレコンゴウインコ.....	19
	アオキコンゴウインコ.....	20
	ルリコンゴウインコ.....	21
	コンゴウインコ（アカコンゴウインコ）.....	22
	ベニコンゴウインコ.....	23
	ヒワコンゴウインコ.....	24
	ミドリコンゴウインコ.....	25
	アカミミコンゴウインコ.....	26
	アカビタイヒメコンゴウインコ.....	27
	キエリボウシインコ.....	28
	キガシラボウシインコ.....	29
	ニョオウインコ.....	30
6	資料.....	31
	オウム目分類表.....	32
	参考文献.....	37

1 マニュアルの目的

日本において、オウム目鳥類は愛玩動物としての人気が高く、かつて日本は有数のオウム輸入国であった。一方、ワシントン条約附属書 I 掲載種であるコバタン等においては商業目的での輸出入は原則禁止されており、本邦内においては「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（以下、「種の保存法」）に基づき譲渡譲受が規制されている。

本マニュアルでは国内におけるオウム目鳥類の適正な流通管理を行うため、コバタンやキエリボウシインコをはじめ国内飼育の多いと思われる種、及びそれらの類似種等を取り上げ、見分けるための形態的特徴を分かりやすくまとめたものである。

2 規制の概要

○輸出入の規制

・ワシントン条約(CITES)

ワシントン条約附属書は、種の絶滅のおそれの程度と種の存続に対する国際取引の影響度が考慮され、3つのカテゴリー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）に分けられている。日本は、「外国為替及び外国貿易法」及び「関税法」により同条約に基づく国際取引規制を行っている。

オウム目については、附属書Ⅰに掲げる種並びに附属書に掲げられていない *Agapornis roseicollis*（コザクラインコ）、*Melopsittacus undulates*（セキセイインコ）、*Nymphicus hollandicus*（オカメインコ）及び *Psittacula krameri*（ホンセイインコ）を除いたすべての種が、附属書Ⅱに該当する。

本マニュアルで扱うオウム類は以下のとおりである。

	附属書Ⅰ		附属書Ⅱ
掲載基準	絶滅のおそれのある種で、取引により影響を受けている又は受けるおそれのあるもの		現在は必ずしも絶滅のおそれはないが、取引を規制しなければ絶滅のおそれのあるもの
本資料で取り扱っている種	オウム科	シロビタイムジオウム、フィリピンオウム、オオバタン、コバタン、ヤシオウム	アカビタイムジオウム、キバタン
	インコ科	キエリボウシインコ、キガシラボウシインコ、スミレコンゴウインコ、コスミレコンゴウインコ、ヒワコンゴウインコ、アオキコンゴウインコ、コンゴウインコ(アカコンゴウインコ)、ミドリコンゴウインコ、アカミコンゴウインコ、ニョオウインコ、アカビタイヒメコンゴウインコ、ヒスイインコ	ルリコンゴウインコ、ベニコンゴウインコ
輸出入規制の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商業目的のための国際取引は禁止 ・学術及び繁殖目的の取引可能 ・輸出国、輸入国双方の政府の発行する許可書が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ・商業目的の国際取引が可能 ・輸出国政府の発行する輸出許可書等が必要

参考 ワシントン条約掲載種一覧（経済産業省 HP）：

http://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/boekikanri_old/cites/index.html

・動物の輸入届出制度

動物（哺乳類（検疫対象動物を除く。）及び鳥類）等を輸入する者は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、当該動物の種類、数量その他の事項を厚生労働大臣（検疫所）に届け出なければならず、またその際には、動物毎に定められた感染症にかかっていない旨等を記載した輸出国政府機関発行の証明書の添付が必要である。

参考 動物の輸入届出制度について（厚生労働省 HP）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou12/index.html>

○国内での譲渡し等規制（種の保存法）

ワシントン条約附属書 I 掲載種は種の保存法に基づき国際希少野生動植物種として指定され、譲渡し等（あげる、売る、貸す、もらう、買う、借りる）が原則禁止されている。規制対象には、個体（生体、死体、はく製）やその加工品が含まれる。また一部の種においては器官（羽、皮、毛等）も含まれる。

参考 種の保存法の解説（環境省 HP）

<http://www.env.go.jp/nature/yasei/hozonho/espa3.html>

○掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数

日本がワシントン条約に加入した 1980 年以降、2009 年までに原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数をワシントン条約の WEB サイト（<http://www.cites.org/>）にある取引データベースを用いて表に示した（次頁）。

掲載種(附属書 I)の原産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数一覧<生体> (1980~2009年)

学名	和名	ワシントン条約附属書 I 掲載種																
		1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	
<i>Cacatua</i> spp.	オウム属の一種	0	0	0	66	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
<i>Cacatua goffiniana</i>	シロビタイムジオウム	0	50	75	553	112	70	25	55	30	2	30	1	217	0	0	0	3
<i>Cacatua haematurorpygia</i>	フィリピンオウム	0	0	0	4	0	0	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0
<i>Cacatua moluccensis</i>	オオバタン	0	31	27	176	123	55	207	300	151	269	50	2	11	5	9	0	0
<i>Cacatua sulphurea</i>	コバタン	0	139	195	246	193	329	246	811	659	775	1058	1037	1568	792	134	197	197
<i>Cacatua sulphurea citrinocristata</i>	コキサカオウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Probosciger aterrimus</i>	ヤシオウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Eos</i> spp.	ヒシコ属の一種	0	0	40	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Amazona</i> spp.	ボウシインコ属の一種	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Amazona aurocapillata</i>	キエリボウシインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	295	275	180	460	231	222	222
<i>Amazona brasiliensis</i>	アカオボウシインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
<i>Amazona finschi</i>	フジイロボウシインコ	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	13	6
<i>Amazona leucocephala</i>	サクラボウシインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4	4
<i>Amazona oratrix</i>	キガシラボウシインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	14
<i>Amazona tucumana</i>	カラカネボウシインコ	0	0	0	0	0	50	40	0	45	193	0	0	45	0	0	0	0
<i>Amazona viridigenalis</i>	メキシコアカボウシインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2	5	11	4
<i>Anodorhynchus hyacinthinus</i>	スミロンゴウインコ	0	0	0	0	4	0	1	0	0	3	8	2	6	0	2	3	3
<i>Ara</i> spp.	コンゴウインコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7	13	5	35	2
<i>Ara ambiguus</i>	ヒワコンゴウインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Ara glaucogularis</i>	アオキコンゴウインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Ara macao</i>	コンゴウインコ(アカコンゴウインコ)	0	0	0	10	10	0	5	0	4	0	0	0	11	6	9	8	8
<i>Ara militaris</i>	ミドリコンゴウインコ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	3	1
<i>Ara rubrogenys</i>	アカミミコンゴウインコ	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
<i>Cyanoramphus novaezelandiae</i>	アオハシインコ	0	0	0	0	50	2	0	20	20	0	10	0	0	0	4	32	32
<i>Cyclopsitta diophthalma</i>	イチジクインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2
<i>Eurymphicus</i> spp.	ハイウインコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Eurymphicus cornutus</i>	ハイウインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0
<i>Guarouba guarouba</i>	ニオウインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
<i>Prioniturus couloni</i>	ヤマヒメコンゴウインコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
<i>Prioniturus maracana</i>	アカビタイヒメコンゴウインコ	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
<i>Psephotus</i> spp.	ピセイトインコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Psephotus chrysoterygius</i>	キビタイヒスイインコ	0	0	20	0	0	6	0	0	2	26	4	0	12	6	7	22	22
<i>Psephotus dissimilis</i>	ヒスイインコ	0	0	0	0	34	6	0	0	4	10	14	12	0	12	121	111	111
<i>Psittacule</i> spp.	ホンセイインコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Pyrrhura</i> spp.	ウロコメキシコインコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

学名	和名	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	合計
<i>Cacatua</i> spp.	オウム属の一種	0	3	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89
<i>Cacatua goffiniana</i>	シロビタムジオウム	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1226
<i>Cacatua haematuropygia</i>	フリピンオウム	0	0	0	0	0	0	0	0	6	9	10	6	0	0	41
<i>Cacatua moluccensis</i>	オオハタン	0	2	0	3	12	14	11	18	30	34	19	21	10	16	1606
<i>Cacatua sulphurea</i>	コハタン	90	109	61	87	266	193	190	133	138	8	0	0	0	15	3 9672
<i>Cacatua sulphurea citrinocristata</i>	コキサカオウム	56	51	34	25	13	45	42	25	23	2	0	0	0	3	2 1409
<i>Probosciger aterrimus</i>	ヤシオウム	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
<i>Eos</i> spp.	ヒニコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155
<i>Amazona</i> spp.	ボウシニコ属の一種	47	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89
<i>Amazona auropalliata</i>	キエリボウシニコ	323	202	180	178	107	128	87	9	0	0	0	0	0	0	2877
<i>Amazona brasiliensis</i>	アカオボウシニコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
<i>Amazona finschi</i>	フジロボウシニコ	8	25	15	1	2	11	0	0	4	0	0	4	0	0	102
<i>Amazona leucocephala</i>	サカラボウシニコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
<i>Amazona oratrix</i>	キガンラボウシニコ	57	27	15	7	23	8	5	2	0	0	0	0	0	0	162
<i>Amazona tucumana</i>	カラカネボウシニコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	373
<i>Amazona viridigenalis</i>	メキシコアカボウシニコ	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
<i>Anodorhynchus hyacinthinus</i>	スマレコングウニコ	3	1	2	0	16	3	0	0	2	1	0	0	0	0	57
<i>Ara</i> spp.	コンゴウニコ属の一種	3	41	0	6	4	0	0	9	0	0	0	0	0	0	126
<i>Ara ambiguus</i>	ヒワコンゴウニコ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
<i>Ara glaucogularis</i>	アオキコンゴウニコ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
<i>Ara macao</i>	コンゴウニコ (アカコンゴウニコ)	0	0	4	0	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	76
<i>Ara militaris</i>	ミドリコンゴウニコ	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
<i>Ara rubrogenys</i>	アカミコンゴウニコ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
<i>Cyanoramphus novaezelandiae</i>	アオハシニコ	46	8	16	14	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	237
<i>Cyclopsitta diophthalma</i>	イチジクニコ	14	11	0	23	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
<i>Eunymphicus</i> spp.	ヘイワニコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
<i>Eunymphicus cornutus</i>	ヘイワニコ	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
<i>Guarouba guarouba</i>	ニョウニコ	2	0	0	0	9	3	2	1	12	7	24	9	4	0	91
<i>Fimmolius couloni</i>	ヤマヒメコンゴウニコ	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
<i>Fimmolius maracana</i>	アカビタイヒメコンゴウニコ	2	0	0	2	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	24
<i>Psephotus</i> spp.	ピセイニコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
<i>Psephotus chrysopterygius</i>	キビタイヒスニコ	5	2	10	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125
<i>Psephotus dissimilis</i>	ヒスニコ	16	18	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	365
<i>Psittacula</i> spp.	ホンセイニコ属の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3299
<i>Pyrrhura</i> spp.	ウロコメキシコニコ属の一種	0	0	0	0	0	20	0	2	0	0	0	4	0	0	26

3 オウム・インコ類について

オウム・インコ類は形態的にもユニークで特殊化した特徴を持っており、他の鳥類グループとの類縁関係を決めることが難しい。現在、分類学的にはハト目とカッコウ目との間に置かれているものの、そのどちらの目とも類縁性が不明瞭である。このことはオウム・インコ類が鳥類進化の過程のかなり早い段階で他の系統から分かれたことを示唆している。この仲間は現在、熱帯と南半球に広く分布している。1800 年中期刊ころまでは、北アメリカの中東部にカロライナインコが生息し、最も北に分布する種であったが、1900 年初頭に絶滅してしまった。

オウム・インコ類のペットとして歴史は古く、紀元前 400 年頃にコセイインコに関するギリシア語で書かれた記述が最も古い記録である。そこには人語を覚えて、それを話す能力が記述されていた。それ以来、ユニークな形態と鮮やかな色彩を持ち、人の言葉を覚えて話すこの仲間は、ヨーロッパの支配階級にある貴族の間で、自らの地位を象徴するシンボルとしてもはやされる存在となった。今日では、非常に多くの種がペットとして飼育されており、その結果、マニアによる珍種への執着等による乱獲によって、絶滅に向かっている種が多いことも事実である。

○形態的特徴

オウム・インコ類に属する種は、どの種にも共通な独特な特徴を有している。

1) 特徴的な嘴

上嘴が大きく下に湾曲して先端がかぎ状となり、そこにより小さめで上に湾曲した下嘴がおさまった、猛禽類の嘴に似た形状をしている。上嘴は特殊な蝶つがいによって頭骨に付着していることにより、微妙な動きとテコによる大きな力を得ることができる構造となっている。

2) 特徴的な足の指

鳥類の多くは、前向きに 3 指、後ろ向きに 1 指といった三前趾足（さんぜんしそく）の形態を持っているが、この仲間は前向きに 2 指、後ろ向きに 2 指の対指足（たいしそく）となっている。この指の配置は極めて強い握力を与えるのみならず、指先の器用さに寄与している。この器用さは特に際立っており、人と同じように利き手（利き足）があることが知られている。

3) 飛翔能力

基本的に小型種は素早く直線的な飛翔をし、大型種は比較的ゆったりとした飛び方をするものの、大型のコンゴウインコ類は非常に素早い飛翔を行うことが知られている。

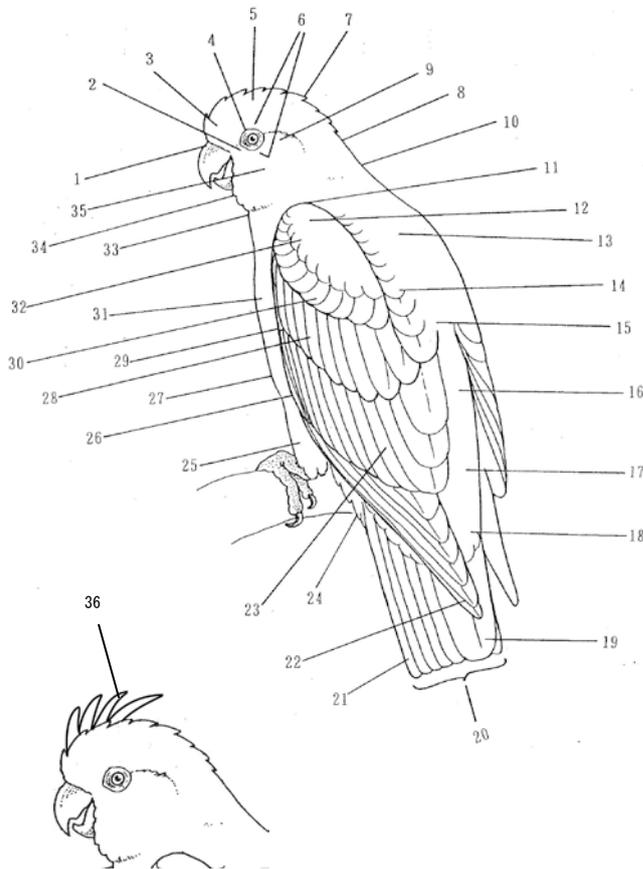
4) 尾羽の構造

オウム・インコ類の尾羽の構造は非常に変化に富んでいる。コンゴウインコ類などは尾羽が非

常に長く、全長のおよそ3分の2を占めており、仲間とのコミュニケーションに大きく寄与しているものと考えられている。一方で、マレー半島やボルネオに分布するサトウチョウは尾が短く先が丸く尾筒で隠れてしまうほど短い。また、インドネシアなどに分布するウチワインコ類は、尾羽中央にある一対の羽軸が著しく長く伸び、先端部にうちわ状に羽弁があるだけといった特異な形状をしているが、その機能については知られていない。また、ニューギニアに分布するケラインコ類の尾羽の先端部は羽軸が露出し、先端が堅くなっており、キツツキのように木の幹を登る際、体を支える役目を果たしているような構造もみられる。

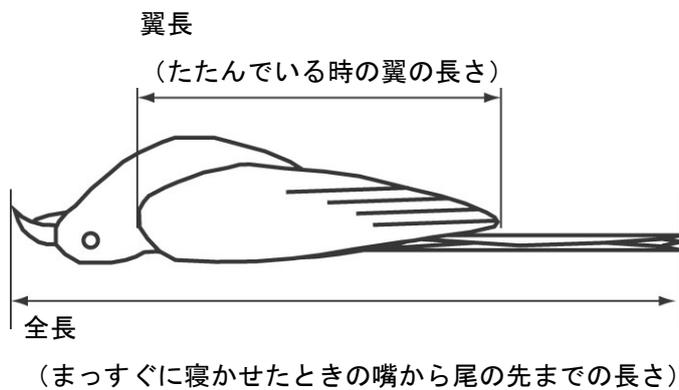
4 各部名称

■オウムの各部名称



1	蠟(ろう)膜	19	中央尾羽
2	目先	20	尾羽
3	額	21	最外側尾羽
4	アイリング	22	初列風切
5	頭頂	23	次列風切
6	囲眼部	24	下尾筒
7	後頭	25	腿
8	頸	26	初列雨覆
9	耳羽	27	腹部
10	後頸	28	大雨覆
11	翼角	29	小翼羽
12	肩	30	中雨覆
13	背	31	胸部
14	肩羽	32	小雨覆
15	背上部	33	喉
16	背下部	34	顎
17	腰	35	頬
18	上尾筒	36	冠羽

■鳥類の計測部位



5 オウム目鳥類の各種の形態的特徴

ヤシオウム

学名 : *Probosciger aterrimus*

英名 : Palm Cockatoo, Black Macaw, Goliath Aratoo, Goliath Cockatoo,
Great Black Cockatoo, Great Palm Cockatoo

原産地 : アルー諸島・西パプア諸島 (インドネシア)、ニューギニア、
ヨーク岬半島 (オーストラリア)

全長 : 60cm

翼長 : 350-406mm (*P. a. stenolophus*)

体重 : 910-1200g

360-405mm (*P. a. goliath*)

305-325mm (*P. a. aterrimus*)

320-390mm (*P. a. macgillivrayi*)

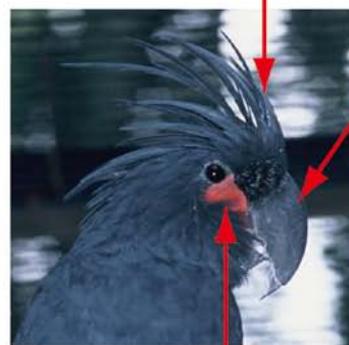
掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 7個体

本種には、*P. a. stenolophus* (ホソサカヤシオウム), *P. a. goliath* (フトサカヤシオウム), *P. a. aterrimus* (ヤシオウム), *P. a. macgillivrayi* の4亜種がある (Dickinson 2003)。

全身黒色で、後ろに反った目立つ冠羽を持つ。大きな黒い嘴で、嘴の付け根にある皮膚の露出した部分や口の中は紅色。他の同形の黒色型オウムでは尾羽に黄色や白のバンドが入るが、本種の尾は黒い。



目立った冠羽。



大きな嘴。

嘴の付け根に紅色の斑。

尾羽は黒く、黄色や白の
バンドは入らない。



オオバタン

学名：*Cacatua moluccensis*

英名：Moluccan Cockatoo, Rose cackatoo, Salmon-crested Cockatoo,
Salmon-crested cackatoo

異名：トキサカオウム

原産地：モルッカ諸島南部（インドネシア）

全長：52cm

翼長：290-315mm

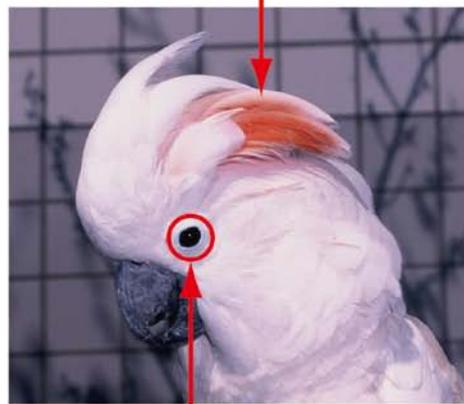
体重：775-935g

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2006年)：1,606個体

全身サーモンピンク色。後ろに反った幅広の冠羽を持ち、冠羽はよりサーモンピンク色が強い。翼の裏側と尾羽の裏側は黄色味を帯びる。アイリングは青味を帯びた白色。虹彩色はオスでは黒味がかかった茶色で、メスでは赤味がかかった茶色。



サーモンピンクの色味の強い冠羽。



青味を帯びた白色のアイリング。

キバタン

学名：*Cacatua galerita*

英名：Sulphur-crested Cockatoo, Greater Sulphur-crested Cockatoo,

Sulphur-crested cackatoo, White Cockatoo, Yellow-crested cackatoo

原産地：北・東オーストラリア、ニューギニア、アルー諸島
(インドネシア)

全長：50cm

翼長：325-390mm (*C. g. galerita*)

体重：815-975g

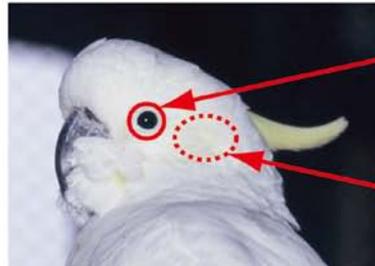
類似種：コバタン (*C. sulphurea*)

掲載種の前産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：2,349個体

本種には、*C. g. triton* (アオメキバタン)、*C. g. eleonora* (アルーキバタン)、*C. g. fitzroyi* (ホクゴウキバタン)、*C. g. galerita* (キバタン) の4亜種がある (Dickinson 2003)。

体は全体的に白色で、耳羽は薄い黄色、冠羽は黄色である。虹彩色はオスでは黒味がかかった茶色、メスでは赤味がかかった茶色。亜種 *C. g. galerita* ではアイリングが白色だが、亜種 *C. g. fitzroyi* や *C. g. triton* では青色。

類似種コバタンは、全長33cm、体重308-380gであり、本種と比べて小さいこと、耳羽の黄色味が強いことで区別できる。



亜種 *C. g. galerita* では
アイリングが白色。

耳羽の黄色が目立たない。



コバタン (左) とキバタン (右)
では、明らかに大きさが異なる。

コバタン

学名 : *Cacatua sulphurea*

英名 : Yellow-crested Cockatoo, Lesser Sulphur-crested cackatoo,
Lesser Sulphur-crested Cockatoo, Sulphur-crested Cockatoo,
White Cockatoo

異名 : コハクインコ

原産地 : スラウェシ島から小スンダ列島 (インドネシア)

全長 : 33cm 翼長 : 215-273mm (*C. s. sulphurea*)

体重 : 308-380g 258-273mm (*C. s. abbotti*)

類似種 : キバタン (*C. galerita*)

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 11,278 個体

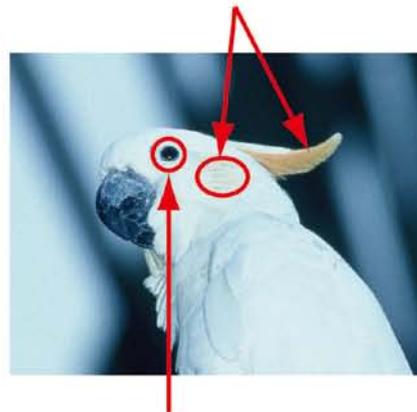
本種には、*C. s. sulphurea* (コバタン), *C. s. abbotti* (マメコバタン), *C. s. parvula* (コガタコバタン), *C. s. citrinocristata* (コキサカオウム) の4亜種がある (Dickinson 2003)。

体は全体的に白色だが、冠羽と耳羽が黄色である。アイリングは乳白色。虹彩色はオスでは黒味がかかった茶色、メスでは茶色味がかかった赤色である。亜種コキサカオウム (*C. s. citrinocristata*) では冠羽と耳羽がオレンジ色である。

類似種キバタンは、全長 50cm、体重 815-975g であり、本種と比べて大きいこと、耳羽の黄色味が弱いことで区別できる。



亜種コキサカオウムの
耳羽と冠羽はオレンジ色。



アイリングは乳白色。

シロビタイムジオウム

学名：*Cacatua goffiniana* (Dickinson (2003) では *Cacatua goffini*)

英名：Goffin's Cockatoo, Goffin's cackatoo, Tanimbar Cockatoo,
Tanimbar Corella

異名：ハシアオバタン

原産地：タニンバル諸島（インドネシア）

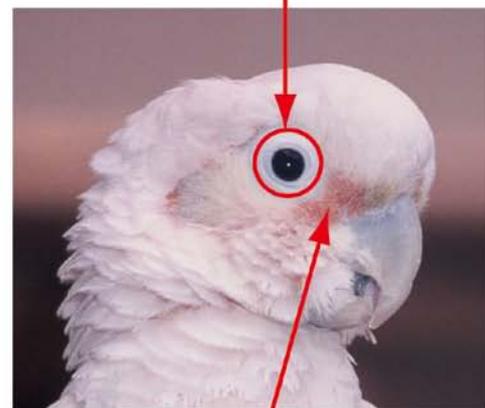
全長：32cm

翼長：210-235mm

体重：300g

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：1,226 個体

全身白色だが、翼下面および尾羽の下面は黄味を帯びる。目先はサーモンピンク。短く丸まった上嘴で、短い冠羽を持つ。アイリングは薄青色で、眼の下に拡張しない。虹彩色はオスでは黒味がかかった茶色、メスでは赤味がかかった茶色。



アイリングが薄青色。
円形で下に広がらない。

目先がサーモンピンク。

アカビタイムジオウム

学名 : *Cacatua sanguinea*

英名 : Bare-eyed Cockatoo, Bare-eyed Corella, Blood-stained Cockatoo,
Blue-eyed Cockatoo, Corella, Dampier's Corella, Little Cockatoo,
Little Corella, Short-billed Cockatoo, Short-billed Corella

原産地 : ニューギニア南部、オーストラリア

全長 : 38cm

翼長 : 265-322mm (*C. s. sanguinea*)

体重 : 350-530g

255-285mm (*C. s. westralensis*)

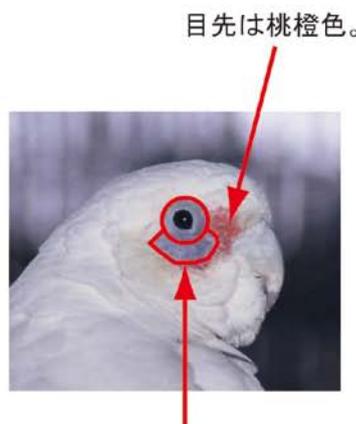
255-275mm (*C. s. gymnopsis*)

240-255mm (*C. s. normantoni*)

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 262 個体

本種には *C. s. transfreta*, *C. s. sanguinea* (アカビタイムジオウム), *C. s. westralensis*, *C. s. gymnopsis*, *C. s. normantoni* (コアカビタイムジオウム) の5亜種がある (Dickinson 2003)。

全身白色だが、目先は桃橙色を呈す。短く丸まった上嘴で、短い冠羽を持つ。アイリングは灰青色で、眼の下に拡張する。



目先は桃橙色。

アイリングは灰青色で、眼の下に拡張する。

フィリピンオウム

学名 : *Cacatua haematuropygia*

英名 : Philippine Cockatoo, Philippine Islands Cockatoo,
Red-vented cackatoo, Red-vented Cockatoo

異名 : アカハラコバタン

原産地 : フィリピン

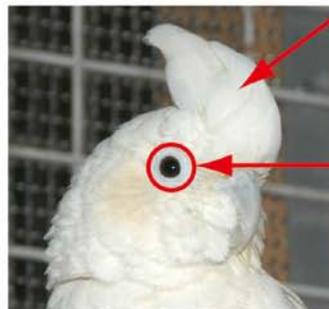
全長 : 31cm

翼長 : 205-230mm

体重 : 340g

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 41 個体

全身白色だが、翼下面および尾羽の下面は黄味を帯びる。下尾筒は赤で羽縁は暗白色。短く丸まった上嘴で、短い冠羽を持つ。アイリングは暗白色で、眼の下に拡張しない。虹彩色はオスでは黒味がかった茶色、メスでは赤味がかった茶色。



短い冠羽

(たたまれている
ときもある)

アイリングが暗白色。
円形で下に広がらない。



下尾筒が赤色。

尾羽の下面は黄色。

ヒスイインコ

学名：*Psephotus dissimilis*

英名：Hooded Parrot, Antbed Parrot, Anthill Parrot, Black-hooded Parakeet,
Black-hooded Parrot, Golden-shouldered Parrot, Hooded Parakeet

異名：ズグロキガタオウム

原産地：オーストラリア北部

全長：26cm

翼長：119-122mm

体重：50-60g

類似種：キビタイヒスイインコ (*P. chrysopterygius*)

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：365 個体

オスは頭頂から眼の下までは黒い。背面は茶色で腰は青みがかった緑色。顔と下面はターコイズブルー。下尾筒はオレンジ味を帯びた赤色で羽縁が白い。小雨覆は鮮やかな黄色。(写真はどちらもオス)

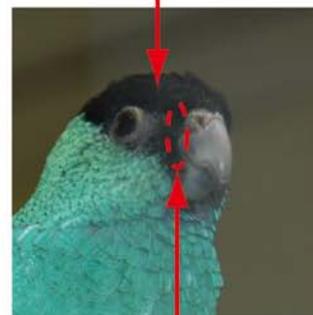
メスの体は全体的にくすんだ緑色で、額、頭頂、頬前部が灰褐色である。下尾筒はサーモンピンク色で羽縁が白い。

類似種であるキビタイヒスイインコ (*P. chrysopterygius*) とは、目先に黄色の帯がないこと、翼の黄色の斑がより広いこと、腹部が赤くないことで見分けることができる。



広い翼の黄斑。
サーモンピンクの下尾筒。

頭頂から眼の下までが黒い。



目先に黄色い帯がない。

スミレコンゴウインコ

学名：*Anodorhynchus hyacinthinus*

英名：Hyacinth Macaw, Hyacinthine Macaw

異名：ヒヤシンスコンゴウ、ヒヤシンスハーマー、
フカミドリコンゴウ

原産地：ブラジル北東部・中東部・中南部、ボリビア東部、
パラグアイ北部

全長：100cm 翼長：388-425mm

体重：1200-1450g

類似種：コスミレコンゴウインコ (*A. leari*)

掲載種の原産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：57個体

最も全長の長いオウム。体全体は青色で、アイリングは黄色。下嘴の付け根を取り囲むように、黄色い三日月状の裸皮部分がある。類似種のコスミレコンゴウインコ (*A. leari*：全長75cm) よりも大きいこと、体全体の色が青紫色で単一であること、嘴の付け根の黄色い裸皮部分の形状で見分けることができる。



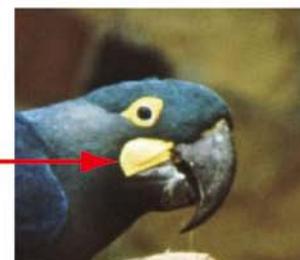
左：スミレコンゴウインコ（少し大きい）

右：コスミレコンゴウインコ

黄色い三日月状の裸皮部
(スミレコンゴウインコ)



黄色い水滴状の裸皮部
(コスミレコンゴウインコ)



コスミレコンゴウインコ

学名：*Anodorhynchus leari*

英名：Indigo Macaw, Lear's Macaw

原産地：ブラジル中東部

全長：75cm

翼長：375-405mm

体重：950g

類似種：スミレコンゴウインコ (*A. hyacinthinus*)

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：0 個体

頭部と頸部は緑味を帯びた青色で、体の背面は青紫色。アイリングは黄色。下嘴の付け根には水滴型の裸皮部分がある。類似種のスミレコンゴウインコ (*A. hyacinthinus*) との見分け方はスミレコンゴウインコのページ (前ページ) を参照。

少し緑かかった青色。



水滴状の黄色い
裸皮部。

アオキコンゴウインコ

学名：*Ara glaucogularis*

英名：Blue-throated Macaw, Caninde Macaw, Wagler's Macaw

原産地：ボリビア中部

全長：85cm

翼長：350-363mm

体重：750g

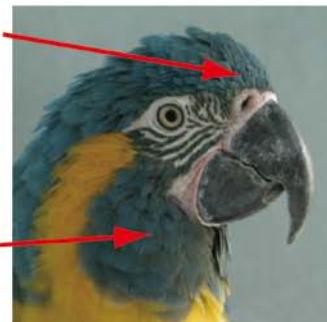
類似種：ルリコンゴウインコ (*A. ararauna*)

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：2個体

前頭部を含めて体の上面は青色。喉や首の脇から耳羽にかけては緑味を帯びた青色。下面は黄色。顔は白色で、青緑色の太めの縞模様がある。類似種のルリコンゴウインコ (*A. ararauna*) とは、喉が黒くなく青色であること、前頭部が青いこと、顔の縞模様が太いこと、体の上面が緑味を帯びた青色であることなどから見分けることができる。



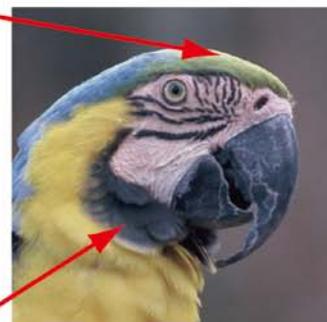
前頭部は青色。



喉は青い。

アオキコンゴウインコ

前頭部は緑色。



喉は黒い。

ルリコンゴウインコ

ルリコンゴウインコ

学名：*Ara ararauna*

英名：Blue-and-yellow Macaw, Blue-and-gold Macaw, Blue-yellow Macaw

原産地：南米北部

全長：86cm

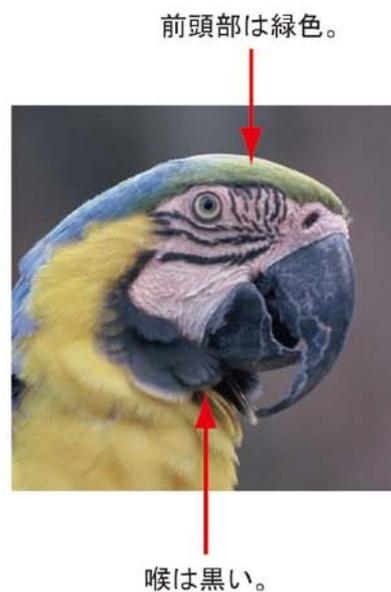
翼長：360-390mm

体重：1040-1286g

類似種：アオキコンゴウインコ (*A. glaucogularis*)

掲載種の原産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：1,780個体

前頭部は緑色で、体の上面は青色。喉は黒く体の下面はオレンジがかった黄色。顔は白色で、緑味を帯びた黒色の細かい縞模様がはいる。類似種のアオキコンゴウインコ (*A. glaucogularis*) との見分け方はアオキコンゴウインコのページ(前ページ)を参照。



コンゴウインコ（アカコンゴウインコ）

学名：*Ara macao*

英名：Scarlet Macaw, Red-and-yellow Macaw, Red-breasted Macaw,
Red-yellow-and-blue Macaw, Scarled macaw

異名：ハーマー

原産地：中米、南米北部

全長：85cm

翼長：409-429mm (*A. m. cyanopterus*)

体重：1060-1123g

384-394mm (*A. m. macao*)

類似種：ベニコングウインコ (*A. chloropterus*)

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：76個体

本種には、*A. m. cyanopterus*, *A. m. macao* の2亜種がある (Dickinson 2003)。

体は全体的に深紅色で、背面下部から上尾筒、下尾筒にかけて青色。大雨覆と中雨覆は黄色で先端は緑色。顔は白色で、目立たない細かい赤い縞模様がある。類似種のベニコングウインコ (*A. chloropterus*) とは、体の色が薄い紅色で雨覆が黄色であること、顔の縞模様が目立たないことなどから見分けることができる。

黄色い雨覆。



縞模様が目立たない（コンゴウインコ）

縞模様が目立つ（ベニコングウインコ）



ベニコンゴウインコ

学名 : *Ara chloropterus*

英名 : Green-winged Macaw, Red-and-green Macaw, Red-and-blue Macaw,
Red-blue-and-green Macaw, Red-green Macaw

異名 : アカコンゴウインコ

原産地 : 南米中部・北部

全長 : 90cm

翼長 : 380-420mm

体重 : 1050-1320g

類似種 : コンゴウインコ (*A. macao*)

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 1,162 個体

体は全体的に暗赤色で、中雨覆、肩羽、三列風切は緑色。背面、腰、上尾筒、下尾筒は青色。顔は白色で、目立つ赤い縞模様がある。類似種のコンゴウインコ (*A. macao*) との見分け方はコンゴウインコのページ (前ページ) を参照。



雨覆に黄色が入らない。

顔の赤い縞模様が目立つ。



ヒワコンゴウインコ

学名 : *Ara ambiguus*

英名 : Buffon's Macaw, Grand Military Macaw, Great Green Macaw,
Green Macaw

原産地 : 中米、南米北西部

全長 : 85cm

翼長 : 356-422mm (*A. a. ambiguus*)

体重 : 1300g

類似種 : ミドリコンゴウインコ (*A. militaris*)

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 1 個体

本種には、*A. a. ambiguus* (ヒワコンゴウインコ) , *A. a. guayaquilensis* (エクアドルヒワコンゴウ) の2亜種がある (Dickinson 2003)。

体は全体的に黄緑色で、翼は青色。額と目先の裸皮部分に縞状に生える羽が深紅色。尾羽は上面がオレンジ色を帯びた赤色で、先は鈍い青色。類似種のミドリコンゴウインコ (*A. militaris* : 全長 70cm) とは、全長が長いこと、頭頂部の色が青味を帯びず、より黄色味を帯びた緑色であること、尾羽がオレンジ色を帯びた赤色であることなどで見分けることができる。



オレンジ色を帯びた赤色。

ミドリコンゴウインコ

学名：*Ara militaris*

英名：Military Macaw

異名：オオミドリコンゴウ

原産地：メキシコ、南米西部

全長：70cm

翼長：350-392mm (*A. m. mexicanus*)

体重：900g

345-374mm (*A. m. militaris*)

類似種：ヒワコンゴウインコ (*A. ambiguus*)

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：18 個体

本種には、*A. m. mexicanus* (メキシコミドリコンゴウ)、*A. m. militaris* (ミドリコンゴウインコ)、*A. m. bolivianus* (ボリビアミドリコンゴウ) の3亜種がある (Dickinson 2003)。

体は全体的に緑色で、背面と雨覆はオリーブ色を帯び、翼は青色。頭頂から後頸にかけては、薄く青味がかかる。額と目先の裸皮部分に縞状に生える羽が赤色。尾羽は上面が茶色味を帯びた赤色で、先は暗青色。類似種のヒワコンゴウインコ (*A. ambiguus*) との見分け方はヒワコンゴウインコのページ (前ページ) を参照。



茶色味を帯びた赤色。

アカミミコンゴウインコ

学名：*Ara rubrogenys*

英名：Red-fronted Macaw, Lafresnaye's Macaw, Red-cheeked Macaw

原産地：ボリビア中南部

全長：60cm

翼長：295-314mm

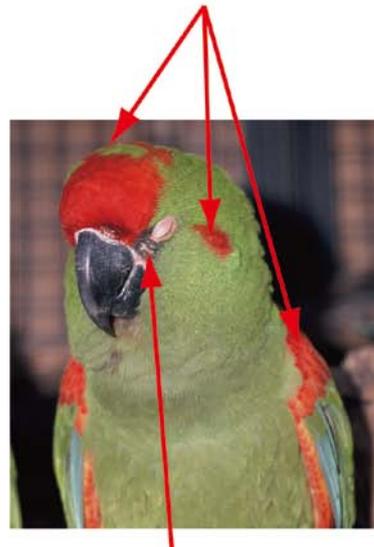
体重：550g

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：13個体

体は全体的にオリーブ色だが、前頭部、肩、耳羽の部分は特徴的なオレンジがかった赤色。顔はピンク色で、ごく僅かに緑褐色の細かい縞模様が見られる。



前頭部、耳羽、肩に特徴的な
オレンジがかった赤色。



目先の裸皮部分に僅かに見られる
縞模様。

アカビタイヒメコンゴウインコ

学名 : *Primolius maracana*

英名 : Blue-winged Macaw, Illiger's Macaw

異名 : アカアシコンゴウ

原産地 : ブラジル東部

全長 : 43cm

翼長 : 205-225mm

体重 : 265g

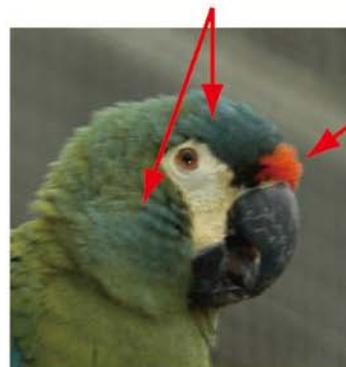
掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 24 個体

額は赤く、中型サイズの緑色のインコで額が赤いのは本種のみである。頭頂、頸、頬下部は緑がかった青色で、背面下部と腹部は赤色。尾羽は青く、根元に近づくほど赤褐色になる。顔の裸出部は薄黄色。

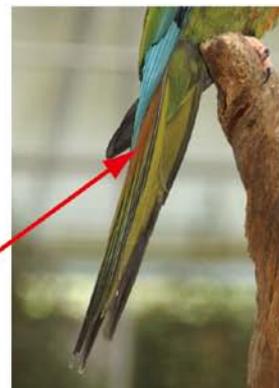


腹部は赤色。

頭頂、頬下部は緑がかった青色。



赤い額。



尾羽の根元は赤褐色。

キエリボウシインコ

学名 : *Amazona auropalliata*

英名 : Yellow-naped Parrot, Yellow-naped Amazon

原産地 : メキシコ南部からコスタリカ

全長 : 35cm

翼長 : 209-234mm

類似種 : キガシラボウシインコ (*A. oratrix*)

掲載種の実産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年~2009年) : 2,877 個体

Amazona ocreocephala に含まれていた3亜種 (*A. o. auropalliata* (キエリボウシインコ), *A. o. caribaea*, *A. o. parvipes* (アシボソキエリボウシ)) の統合および独立の種への格上げがされた。

体全体は黄緑色であるが、えり首から後頭にかけて黄色い。個体によって黄色の斑の大きさや形状は異なる。嘴は暗灰色。亜種 *A. auropalliata parvipes* では、えり首の黄色の範囲が広く、翼角が赤い。

えり首から後頭にかけて黄色い。



嘴は暗灰色。

キガシラボウシインコ

(注：種の保存法上の和名はオオキボウシインコ)

学名：*Amazona oratrix*

英名：Yellow-headed Parrot, Mexican yellow-headed amazon,
Yellow-headed Amazon

原産地：メキシコ南部からホンジュラス

全長：35cm 翼長：206-244mm

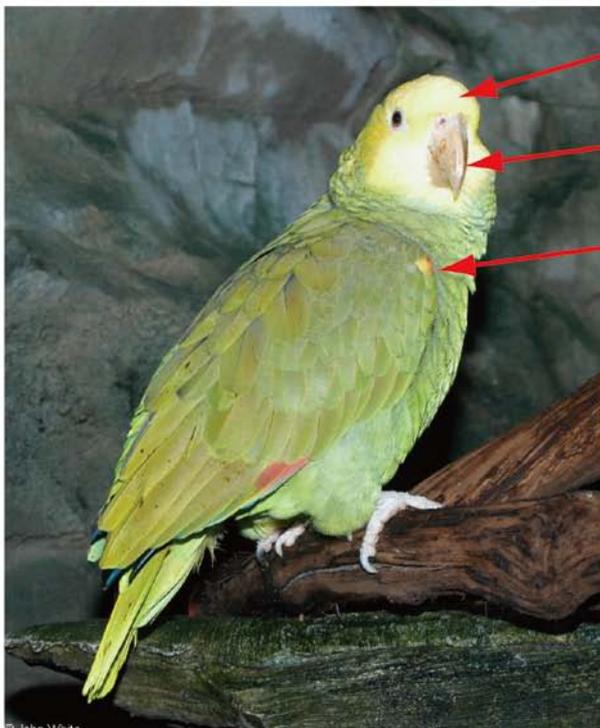
体重：500g

類似種：キエリボウシインコ (*A. auropalliata*)

掲載種の原産国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年)：162 個体

Amazona ocreocephala に含まれていた 3 亜種 (*A. o. belizensis* (マツバヤシボウシ), *A. o. oratrix* (キガシラボウシインコ), *A. o. tresmariae* (オオボウシモドキ)) の統合および独立の種への格上げがされた。

体全体は黄緑色であるが、頭頂や顔、あるいは頭部全体が黄色い。嘴は薄黄色でアイリングは白っぽい。翼角と小雨覆にはオレンジと黄色の混ざった色を呈す。



頭部全体が黄色い。

嘴は薄黄色。

オレンジと黄色が混ざる。

ニョオウインコ

学名 : *Guarouba guarouba*

英名 : Golden Conure, Golden Parakeet, Queen of Bavaria's Conure

異名 : ミカドインコ

原産地 : ブラジル北部

全長 : 34cm

翼長 : 200-218mm

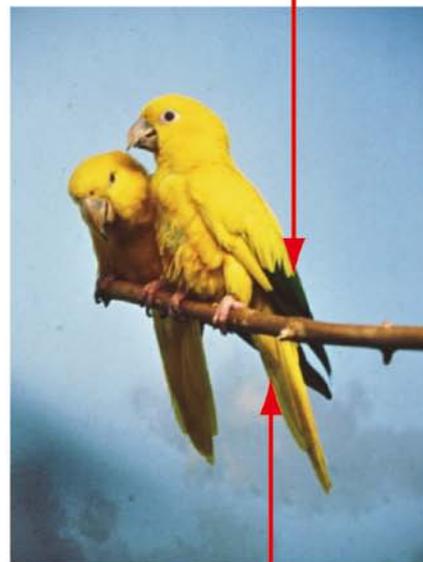
体重 : 270g

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1980年～2009年) : 91 個体

体は全体的に濃い黄色で、初列風切、次列風切は暗緑色。黄色いオウムで尾羽が全て黄色いのは本種のみである。



初列・次列風切は暗緑色。



尾羽は全て黄色。

6 資料

オウム目分類表

オウム目の科、属について掲載し、附属書Ⅰおよび本書に掲載したものについては、種も掲載した。

本書で扱っている附属書Ⅰ掲載種には和名の先頭に●、附属書Ⅱ掲載種には◎で示した。本書で扱わなかった附属書Ⅰ掲載種には和名の先頭に○で示した。

オウム目 (Psittaciformes)

オウム科 (Cacatuidae)

オウム属 (*Cacatua*)

- ◎ キバタン (*C. galerita*)
- シロビタイムジオウム (*C. goffiniana*)
- フィリピンオウム (*C. haematuropygia*)
- オオバタン (*C. moluccensis*)
- ◎ アカビタイムジオウム (*C. sanguinea*)
- コバタン (*C. sulphurea*)

アカサカオウム属 (*Callocephalon*)

クロオウム属 (*Calyptorhynchus*)

モモイロインコ属 (*Eolophus*)

オカメインコ属 (*Nymphicus*)

ヤシオウム属 (*Probosciger*)

- ヤシオウム (*P. aterrimus*)

ヒインコ科 (Loriidae)

テリハインコ属 (*Chalcopsitta*)

イロドリインコ属 (*Charmosyna*)

ヒインコ属 (*Eos*)

- ヤクシャインコ (*E. histrio*)

ジャコウインコ属 (*Glossopsitta*)

オビロインコ属 (*Lorius*)

タカネインコ属 (*Neopsittacus*)

ヤマムスメインコ属 (*Oreopsittacus*)

ハナレインコ属 (*Phigys*)

コシジロインコ属 (*Pseudeos*)

Psittaculopsittacus 属

セイガイインコ属 (*Trichoglossus*)

ムスメインコ属 (*Vini*)

- コンセイインコ (*V. ultramarina*)

インコ科 (Psittacidae)

ボタンインコ属 (*Agapornis*)

キンショウジョウインコ属 (*Alisterus*)

ボウシインコ属 (*Amazona*)

- アカノドボウシインコ (*A. arausiaca*)
- キエリボウシインコ (*A. auropalliata*)
- キボウシインコ (*A. barbadensis*)
- アカオボウシインコ (*A. brasiliensis*)
- フジイロボウシインコ (*A. finschi*)
- オウボウシインコ (*A. guildingii*)
- ミカドボウシインコ (*A. imperialis*)
- サクラボウシインコ (*A. leucocephala*)
- キガシラボウシインコ (*A. oratrix*)
- アカソデボウシインコ (*A. pretrei*)
- アカマユボウシインコ (*A. rhodocorytha*)
- カラカネボウシインコ (*A. tucumana*)
- イロマジリボウシインコ (*A. versicolor*)
- ブドウイロボウシインコ (*A. vinacea*)
- メキシコアカボウシインコ (*A. viridigenalis*)
- アカビタイボウシインコ (*A. vittata*)

スミレコンゴウインコ属 (*Anodorhynchus*)

- ウミアオコンゴウインコ (*A. glaucus*)
- スミレコンゴウインコ (*A. hyacinthinus*)
- コスミレコンゴウインコ (*A. leari*)

ハゴロモインコ属 (*Aprosmictus*)

コンゴウインコ属 (*Ara*)

- ヒワコンゴウインコ (*A. ambiguus*)
- ◎ ルリコンゴウインコ (*A. ararauna*)
- ◎ ベニコンゴウインコ (*A. chloropterus*)
- アオキコンゴウインコ (*A. glaucogularis*)
- コンゴウインコ (*A. macao*)
- ミドリコンゴウインコ (*A. militaris*)

● アカミミコンゴウインコ (*A. rubrogenys*)

クサビオインコ属 (*Aratinga*)

マキエゴシキインコ属 (*Barnardius*)

サザナミインコ属 (*Bolborhynchus*)

キリオインコ属 (*Bolbopsittacus*)

ミドリインコ属 (*Brotogeris*)

カロライナインコ属 (*Conuropsis*)

クロインコ属 (*Coracopsis*)

イワインコ属 (*Cyanoliseus*)

アオコンゴウインコ属 (*Cyanopsitta*)

○ アオコンゴウインコ (*C. spixii*)

アオハシインコ属 (*Cyanoramphus*)

○ ノーフォークインコ (*C. cookii*)

○ チャタムアオハシインコ (*C. forbesi*)

○ アオハシインコ (*C. novaezelandiae*)

○ ニューカレドニアアオハシインコ (*C. saisseti*)

Cyclopsitta 属

○ アカガオイチジクインコ (*C. diophthalma coxeni*)

ヒオウギインコ属 (*Deropterus*)

Diopsittaca 属

オオハナインコ属 (*Eclectus*)

コイミドリインコ属 (*Enicognathus*)

ヘイワインコ属 (*Eunymphicus*)

○ ヘイワインコ (*E. cornutus*)

ルリハインコ属 (*Forpus*)

イロガシラインコ属 (*Geoffroyus*)

ヨツボシミドリインコ属 (*Graydidascalus*)

Guarouba 属

● ニョオウインコ (*G. guarouba*)

イロガタインコ属 (*Hapalopsittaca*)

オトメインコ属 (*Lathamus*)

ミヤマインコ属 (*Leptosittaca*)

マスカリンインコ属 (*Mascarinus*)

セキセイインコ属 (*Melopsittacus*)

ケラインコ属 (*Micropsitta*)

オキナインコ属 (*Myiopsitta*)

クロガミインコ属 (*Nandayus*)
 ミドリスズメインコ属 (*Nannopsittaca*)
 キキョウインコ属 (*Neophema*)
 ○ アカハラワカバインコ (*N. chrysogaster*)
Neopsephotus 属
 ミヤマオウム属 (*Nestor*)
Northiella 属
 キミミインコ属 (*Ognorhynchus*)
 ○ キミミインコ (*O. icterotis*)
Orthopsittaca 属
 キジインコ属 (*Pezoporus*)
 ○ ヒメフクロウインコ (*P. occidentalis*)
 ○ キジインコ (*P. wallicus*)
 シロハラインコ属 (*Pionites*)
 カザリインコ属 (*Pionopsitta*)
 ○ ヒガシラインコ (*P. pileata*)
 アケボノインコ属 (*Pionus*)
 ヒラオインコ属 (*Platycercus*)
 ハネナガインコ属 (*Poicephalus*)
 ミカズキインコ属 (*Polytelis*)
Primolius 属
 ○ ヤマヒメコンゴウインコ (*P. couloni*)
 ● アカビタイヒメコンゴウインコ (*P. maracana*)
 ウチワインコ属 (*Prioniturus*)
 メンカブリインコ属 (*Prosopieia*)
 ビセイインコ属 (*Psephotus*)
 ○ キビタイヒスイインコ (*P. chrysopterygius*)
 ● ヒスイインコ (*P. dissimilis*)
 ○ ゴクラクインコ (*P. pulcherrimus*)
Psilopsiagon 属
 クビワインコ属 (*Psittacella*)
 ホンセイインコ属 (*Psittacula*)
 ○ モーリシャスホンセイインコ (*P. echo*)
 クサビオヒメインコ属 (*Psittaculirostris*)
 ヨウム属 (*Psittacus*)
 ルリゴシインコ属 (*Psittinus*)

ユーカリインコ属 (*Purpureicephalus*)
ウロコメキシコインコ属 (*Pyrrhura*)
ハシブトインコ属 (*Rhynchopsitta*)
 ○ ハシブトインコ (*R. pachyrhyncha*)
 ○ クリムネインコ (*R. terrisi*)
フクロオウム属 (*Strigops*)
 ○ フクロウオウム (*S. habroptilus*)
オオハナインコモドキ属 (*Tanygnathus*)
イロオインコ属 (*Touit*)
アオハラインコ属 (*Triclaria*)

※ 分類は Morony&Farrand(1975)及び Dickinson(2003)に従い、表記の順は学名のアルファベット順とした。
和名については山階 (1986) を用いた。

参考文献

- Dickinson, E. C. (ed.) (2003) The howard and moore Complete Checklist of the Birds of the World. Revised and enlarged 3rd Edition, London(Christopher Helm).
- Forshaw, J. M. (1989) Parrots of the World (Third edition), Weldon Publishing.
- Forshaw, J. M. (2006) Parrots of the World, Princeton University Press.
- 黒田長禮 (1975) 世界のオウムとインコの図鑑, 講談社.
- Morony, J. J., Bock, W. J. & Farrand, J., Jr. (1975) Reference List of the Birds of the World, American Museum of Natural History.
- Serpell, J. A. (1986) オウムとインコ. 動物大百科, 第8巻 鳥類Ⅱ, 平凡社.
- 白井祥平 (1992) 世界鳥類和名検索辞典 学名篇, 原書房.
- 山階芳麿 (1986) 世界鳥類和名辞典, 大学書林.

平成 22 年度
ワシントン条約附属書掲載種
オウム目鳥類識別マニュアル

平成 23 年 3 月

発行

環境省自然環境局野生生物課

〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1 丁目 2 番 2 号

TEL: 03 (5824) 8282

編集

(財) 自然環境研究センター

〒110-8676 東京都台東区下谷 3 丁目 1 0 番 1 0 号

写真: John White、小宮輝之、中島朋成、日橋一昭
名古屋市東山動物園